

03 巻頭言

自分らしさと老年期

長田 久雄 (おさだ・ひさお)

桜美林大学 国際学術研究科 特任教授

早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修了。東京都老人総合研究所(現、東京都健康長寿医療センター研究所)、東京都立保健科学大学(現、都立大学健康福祉学部)勤務を経て、2002年より桜美林大学大学院教授、2018年4月より2021年3月まで副学長、2022年4月より特任教授。社会福祉法人清水安三記念福祉会理事長。日本応用老年学・日本老年臨床心理学会 副理事長、など。臨床心理士、指導健康心理士、博士(医学)山形大学。専門は、老年心理学、健康心理学、臨床心理学、生涯発達心理学。

04 フォーカス高齢社会

質の高い看取りを目指して

廣岡 佳代 (ひろおか・かよ)

— 認知症をもつがん患者に焦点をあてて —

東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 准教授

2018年 東京医科歯科大学大学院博士後期課程修了。博士(看護学)。病院看護師、在宅ホスピスでの訪問看護師、大学教員、ダイヤ高齢社会研究財団研究員を経て、2022年より現職。専門は、在宅看護、緩和ケア、終末期ケア、研究テーマは終末期ケアの質評価、国保データベースを用いた研究等を担っている。ダイヤ財団客員研究員。

08 Dia Report

近所や近隣との「ゆるやかな交流」の意味とは

澤岡 詩野 (さわおか・しの)

— 「外でちょっと立ち話」から考える —

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員

東京工業大学大学院卒。工学博士。東京理科大学助手を経て、2007年より現職。研究テーマは高齢期の社会関係。業績として「都市のひとり暮らし後期高齢者における他者との日常的交流」(共著『老年社会科学』)、「都市部の企業退職者の社会活動と社会関係におけるインターネットの位置づけ」(単著『応用老年学』)など多数。

12 財団研究紹介

高齢者におけるポジティブ心理学的介入を取り入れたうつ予防プログラムの実践

安 順姫 (あん・じゆんき)

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 研究員

桜美林大学大学院老年学研究科修了、老年学修士。現在、同大学の博士後期課程在学中。ダイヤ財団の研究助手を経て2015年4月より現職。研究テーマはポジティブ心理学を取り入れたところの健康の維持・増進、Well-beingの向上等。財団では「従業員の主観的 Well-beingを向上する介入プログラムの検討」、「高齢者向けハッピープログラムの普及・定着」を担当。

14 Dia Information

表紙撮影：吉羽健二郎氏「菜の花の蜜を吸う蝶々(ツマキチョウ)」(茨城県石岡市常陸風土記の丘、2018年3月撮影)

※吉羽氏は、千葉県我孫子市で写真愛好家を対象に「448SCHOOL」という写真教室をご夫婦で運営されています。